

第1回 笠岡市新病院基本構想有識者会議 議事録概要

1 日 時 令和2年9月29日（火） 午後7時13分から午後9時14分まで

2 場 所 笠岡市中央公民館 集会室

3 出席者 笠岡市新病院基本構想有識者会議委員 13名
市長，政策部長，総務部長
笠岡市立市民病院 副院長外6名
傍聴者 笠岡市議会議員 2名
笠岡市立市民病院職員 6名
基本構想策定支援業務受託業者 3名
事務局 3名

4 議事概要

(1) 委員長・副委員長の選出

委員長：浜田 淳（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 教授）

副委員長：猪木 篤弘（笠岡医師会 会長）

(2) 事務局説明

1) 今後のスケジュール

2) 市民病院の状況

- ・岡山県の状況（地域医療構想）
- ・笠岡市民病院の状況
- ・国民健康保険者，後期高齢者医療被保険者の市内地域別疾病状況
- ・地方公営企業年鑑から，数値で見る市民病院の現状（県自治体病院協議会地域医療部）

3) 新病院基本構想（原案）について

5 協議内容

当日は，各委員の思いや考えを聞くため，フリートークとしました。

各委員から下記のとおり意見等をいただきました。

- (1) 医療需要に関して，倉敷地区と井笠地区があまりにも異なる状況であるため，井笠地区での将来予測等のデータを見る必要がある。
- (2) 地方公営企業年鑑から見ると，市民病院の場合，医師の給与が非常に低く，それが医師を確保しにくい理由の一つと考えている。
- (3) 地方公営企業年鑑のデータから，看護師数の多さ，職員1人1日あたりの診療収入が非常に低いこと，検査技師の多さ，などが見て取れる。職員数，また人件費の改善は必要だと考える。
- (4) 医業収益対人件比率が80%を超えていることは非常に問題である。

- (5) 市民病院の建替に関しては、井笠地区、県南西部の医療体制の中で、機能的にどのような病院を作る必要があるか、笠岡中央病院、笠岡第一病院、市民病院が、それぞれの役割をどう果たせば地域医療が回るのか、それを検討することが第一である。
- (6) 市としてどういう機能を持った病院を作るのか、地域でどのような医療が必要かの議論が必要である。そこに答えが出ないのであれば存続は難しい。必要な機能についての議論を行い、その後に費用のことを検討すれば良いと考える。
- (7) 市民病院においては外科の不在が問題であり、市民病院として、外科医の不在を是として良いのか。
- (8) 地域包括ケアシステムを担う中で、どのような職種、診療科別の医師、必要病床数、在宅機能、リハビリ機能等のあり方をこの会議の中で議論していきたい。
- (9) 岡山大学大学院第2内科からは医師は派遣できない。将来的な医師派遣の可能性については希望を持っているが、明確な予定はない。どのようにしたいという希望よりも、どの程度の医療を提供することが必要であるかの議論を行わなければ、それを支える医師がいないことを認識してほしい。

6 今後の予定

今後の開催日程については、毎月第3火曜日 19時からを基本とすることを確認。

- 次回 第2回 令和2年11月17日(火) 予定
- 第3回 令和2年12月15日(火)
- 第4回 令和3年1月19日(火)
- 第5回 令和3年2月16日(火)
- 第6回 令和3年3月16日(火)